

第 2 回大田区消防団運営委員会議事要旨

I 開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出されたため、令和 3 年 2 月 8 日（月）から令和 3 年 2 月 26 日（金）までの間、書面開催として実施した。

II 配布資料

資料 1 諮問事項に対する課題及び検討の方向性について

資料 2 水災時における活動についてのアンケート調査結果

資料 3 答申（原案）

別添え 第 1 回大田区消防団運営委員会議事録（令和 2 年 10 月 19 日開催）

III 各委員から提出された意見

別紙のとおり

各委員から提出された意見

1 活動体制について

(1) 災害状況に応じた招集及び任務班の編成時期について

- ・ 水災時の招集では、事前に計画を立てることが可能なため、あらかじめ時間に余裕を持って招集時間を決めておけば、消防団員同士の招集時間のずれはなくなる。
また、全員がそろうまで待機している必要はなく、招集した団員から活動を開始していけば交代もできる。
- ・ 招集のタイミングや参集はできなくても連絡は取れる体制など、柔軟な運用を求めます。

(2) 水災活動時の教育訓練及び安全管理について

- ・ 周りを水で囲まれた大田区としては、当然、水災活動時のための訓練は重要である。様々な水害に対しての訓練は、消防署内よりも現地で具体的な活動訓練をした方が有効と考える。
- ・ 悪天候時、屋外でのスマホ（タッチパネル）は使用しづらくなる。そのような問題も訓練を通じて経験していただきたい。

(3) 河川越水等による浸水時の機能移転計画について

- ・ 団本部は消防署内にあるため、移転することはないと思われるが、分団本部の中には十分な活動拠点としての機能を維持できない可能性がある。ただ、水災の活動中に移転をすることは危険も伴うため考えにくい。あらかじめの水災活動計画において機能確保、安全確保しておくことを望む。
- ・ 将来的には浸水時に移転しなくても機能できる様に、平屋建てではなく、浸水を想定した3階建てなどに機能強化が必要ではないか。

(4) 広範囲の浸水による長時間活動などに伴う応援体制等について

- ・ 水災時だけでなく大規模災害の時は消防団相互の応援体制は必要になる。そのためにも、例えば、毎年行っている全消防団がそろう訓練時に、相互応援訓練などを取り入れると有効であると考えます。
- ・ 相互応援体制は必要と思う。

(5) 情報収集体制の強化について

- ・ インターネット環境の整備は重要であるが、一方的な指示だけでなく相互連絡が重要であるので、団本部や消防署内での受備体制も同時に整備するべきであろう。現場の様子を画像や動画で団本部に届けられれば、よりの確な指示が出せると思う。
- ・ 悪天候時、屋外でのスマホ（タッチパネル）は使用しづらくなる。そのような問題も訓練を通じて経験していただきたい。
- ・ インターネット環境の構築も必要ですが、情報回線の混雑による機能低下対策や停電などによる機能停止へのバックアップ体制の構築も必要ではないか。

- ・ 情報収集の強化は、平時に時間をかけて進めるべき重要事項であり、計画的に実施することが肝要である。

(6) 住民等からの水害時緊急避難場所支援の要請対応について

- ・ 各避難場所に消防団員を配置することは、消防署との連携が必要なときにも有効である。

また、避難所の開設についても日頃の消防団訓練の中に取り入れて準備しておくことで機材の設置などの確にアドバイス出来るのではないか。是非各分団の中に避難所の開設に対応する消防団員を養成しておいてほしい。

- ・ 災害ボランティア登録メンバーとの連携をなど明確にしておくべき。
- ・ 要請に対応できる様に検討していく必要がある。
- ・ 消防団は災害対応が使命であるが、台風が来る前から水害時緊急避難場所の支援をすると、平時の状態で自分の仕事を休み、避難場所の設営当初から活動することとなり、運営に必要不可欠な人員となってしまう、水害の危険が切迫し出場要請があっても、避難者が頼りにし離してくれず、使命達成が困難となってしまう。
- ・ 避難場所支援については、必ずしも必要とは限らず、町会ごとにその運用も異なると思われることから、当該避難場所の運営を担う大田区・町会等に対して、その必要性や運用等を協議する必要があると思われる。

また、風水害の2、3日前からの消防団員の人員配置は、任務等に係る時間が検討事項ではありますが、大変困難であると思われる。

2 装備資機材・分団本部施設について

(1) 予想を超える水災に対する装備資機材の増強について

- ・ 分団単位でボート（ゴムボートを含む。）の常備が有用であると考える。
- ・ 各資機材の軽量化については、女性団員に限らず使いやすくなる。あえて「女性団員がいるから」という文言は不要と思う。
- ・ 大田区の町工場の技術で車輪付き担架が開発されたように資機材の軽量化をさらに進めてほしい。
- ・ 軽量化、機能強化が必要である。

(2) 分団本部施設のスペース等の確保及び機能向上について

- ・ 活動拠点となる分団本部は広く使いやすい方がいいのは当然であるが、現在、順次、新しくなっている分団本部はとても快適に使っていると聞いている。なるべく早くすべての分団本部が同じレベルになる事を望む。ただ、ここも「女性に配慮した」という必要はない。男性にも女性にも同様であろう。
- ・ 女性団員への配慮にもっと力を入れていってよいと思います。
- ・ 浸水に対応するとともに十分なスペースの確保、機能強化が必要だと思います。

3 その他

- ・ 「備えあれば憂いなし」力を併せて頑張っていきましょう。
- ・ 田園調布五丁目に対し、多大なご配慮にお礼を申し上げます。宜しくお願い致します。

- 検討や方向性をしっかりと精査して、消防団員への周知徹底の上、よろしくお願い致します。
- 大規模な災害に対応するためには大田区と東京都、具体的には大田区総務部防災危機管理課と消防署の連携がとても重要になる。しかし実際には合同の会議は行っているものの、なかなか日常的に協働しているように感じられない。日頃の接点を増やして、区の持つ出張所等の情報収集力や消防署の実践に対応できる能力を、もっと相互に活用することで、より大きな効果が発揮できると期待する。
- 分団本部や団員に対してのコロナ感染症対策も必要です。
- 備えあれば憂いなしのたとえ、平素より水災時において、消防団員が効果的に活動出来るよう年間教育カリキュラムを考えて訓練をするべきである。